

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3571384号

(P3571384)

(45) 発行日 平成16年9月29日(2004.9.29)

(24) 登録日 平成16年7月2日(2004.7.2)

(51) Int. Cl.⁷

A 4 7 L 1/06

F I

A 4 7 L 1/06

請求項の数 1 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願平6-266320	(73) 特許権者	000101363 アズマ工業株式会社 静岡県浜松市野口町626
(22) 出願日	平成6年10月5日(1994.10.5)	(74) 代理人	100072453 弁理士 林 宏
(65) 公開番号	特開平8-103400	(74) 代理人	100090778 弁理士 内山 正雄
(43) 公開日	平成8年4月23日(1996.4.23)	(72) 発明者	山下 修 右 浜松市野口町626 アズマ工業株式会社 内
審査請求日	平成13年9月27日(2001.9.27)	審査官	金丸 治之
		(56) 参考文献	実開平05-063449 (JP, U)
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 タンク付き水滴ワイパー

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

水滴を掻き集めるためのゴムヘラを有した略ちりとり型のワイパー本体と、該ワイパー本体の後端部に取付けられ、ワイパー本体で掻き集めた水滴を溜めるための貯水タンクを兼ねる握柄とを備えた水滴ワイパーにおいて、
上記貯水タンク兼用の握柄の下端部に筒型の把持部を、中間部に該把持部と比べて幅広で略同じ厚さの平らな膨大部を形設した
ことを特徴とするタンク付き水滴ワイパー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本発明は、ガラス戸や窓等に付着した水滴を集めるための作業用器具として好適なタンク付き水滴ワイパーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、この種の水滴ワイパーとしては、ちりとり型のワイパー本体の後端部に取付けた棒状の握柄の中を貯水タンクとして、ワイパー本体で掻き集めた水滴を受け入れるようにしたものがあるが、該貯水タンクの容量をもっと大きくしたいという要望があった。そこでこれに応えるために、貯水タンク兼用の握柄のタンク部分を、該握柄を中心に立方体状に膨大させた膨大部を形設することが考えられるが、使用する場所によっては、該膨大部が

10

20

邪魔になって操作性が悪くなるという問題がある。

【 0 0 0 3 】

【 発明が解決しようとする課題 】

本発明の技術的課題は、様々な場所の水滴除去に適応することができ、操作性を低下させることなく貯水タンクの容量を増大できるようにしたタンク付き水滴ワイパーを提供することにある。

【 0 0 0 4 】

【 課題を解決するための手段 】

上記課題を解決するために、本発明のタンク付き水滴ワイパーは、水滴を掻き集めるためのゴムヘラを有した略ちりとり型のワイパー本体と、該ワイパー本体の後端部に取付けられ、ワイパー本体で掻き集めた水滴を溜めるための貯水タンクを兼ねる握柄とを備えた水滴ワイパーにおいて、上記貯水タンク兼用の握柄の下端部に筒型の把持部を、中間部に該把持部と比べて幅広で略同じ厚さの平らな膨大部を形設したことを特徴とするものである。

10

【 0 0 0 5 】

【 作用 】

上記水滴ワイパーは、ゴムヘラを上方に向けて把持部を持ち、ガラス戸や窓等の対象部位に該ゴムヘラを押し付けて摺動させることにより、そこに付着している水滴を掻き集めるものである。掻き集められた水滴は、ワイパー本体を通して貯水タンク兼用の握柄内に貯えられ、該把持部が水で一杯になった場合には、引き続き膨大部に貯えられる。

20

特に、上記ワイパーにおいては、貯水タンク兼用の握柄の中間部に上記保持部と比べて幅広で略同じ厚さの平らな膨大部を形設しているため、貯水タンクの容量を増大させながら操作性を低下させることがなく、作業中に該握柄が窓の棧等の対象部位面より突出している部分にぶつかるのを避けることができる。

【 0 0 0 6 】

従って、様々な場所の水滴除去に適応することができ、操作性を低下させることなく貯水タンクの容量を増大することができる。

【 0 0 0 7 】

【 実施例 】

図面は、本発明の実施例を示すものであり、図 1 及び図 2 はタンク付き水滴ワイパーの構成を示している。

30

これらの図に示すように、タンク付き水滴ワイパー 1 は、水滴を掻き集めるためのゴムヘラ 5 を有した略ちりとり型のワイパー本体 3 と、該ワイパー本体 3 で掻き集めた水滴を溜めるための貯水タンクを兼ねる握柄 2 とを備えている。

【 0 0 0 8 】

上記ワイパー本体 3 は、前端部 3 a が開口し、後端部 3 b が箱型に閉じた略ちりとり型をなし、その後端部 3 b は、中央部分を後方に突出させて導水管 4 を形成させている。また、導水管 4 の端部は、一端が閉じた上記貯水タンク兼用の握柄 2 に着脱自在に嵌着されている。

【 0 0 0 9 】

なお、上記ワイパー本体は、図 3 に示すようにゴムヘラ 1 5 を該ワイパー本体 1 3 の底面 1 3 c を含む平面内において上記貯水タンク兼用の握柄 1 2 に対して傾斜させて設けたものであっても良い。

40

【 0 0 1 0 】

上記貯水タンク兼用の握柄 2 の下端部には、水滴ワイパー 1 を把持するための筒型の把持部 2 a が一握りあるいは二握りの長さで設けられ、同中間部には、該把持部 2 a と比べて幅広で、略同じ厚さの平らな膨大部 2 b が形設されている。このため、該タンク付き水滴ワイパー 1 の厚さは貯水タンク 2 を十分に大きくしているにもかかわらず、それを設けていないものと同程度に薄く、その側面は、図 2 に示すように略平坦状である。

【 0 0 1 1 】

50

上記構成を有するタンク付き水滴ワイパー 1 においては、ゴムヘラ 5 を上方に向けて把持部 2 a を持ち、ガラス戸や窓等の対象部位に該ゴムヘラ 5 を押し付けて摺動させる。これにより対象部位に付着している水滴は、上記摺動するゴムヘラ 5 にすくい上げられる。上記ワイパー本体 3 の後端部 3 b は漏斗状になっているので、すくい上げられた水滴は、ワイパー本体 3、導水管 4 を通って貯水タンク兼用の握柄 2 内に流入し、把持部 2 a に貯えられ、該把持部 2 a が水で一杯になった場合には、引き続き膨大部 2 b に貯えられる。

【0012】

上記膨大部 2 b は、把持部 2 a に比べて幅広で略同じ厚さの平らな形状を呈しているもので、上記作業中に、貯水タンク兼用の握柄 2 を窓の棧等の対象部位面より突出している部分にぶつけることなく摺動させることができる。

該作業が終了するか、または上記貯水タンク兼用の握柄 2 が一杯になり、該貯水タンク兼用の握柄 2 内に貯えられた水滴を捨てる際には、ワイパー本体 3 から該握柄 2 を取り外して内部の水をバケツ等に排水する。

【0013】

【発明の効果】

以上に説明したように、本発明によれば、様々な場所の水滴除去に適応することができ、操作性を低下させることなく貯水タンクの容量を増大することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の実施例の平面図である。

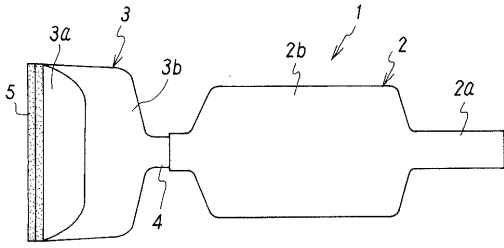
【図 2】同実施例の側断面図である。

【図 3】ワイパー本体の他の実施例の平面図である。

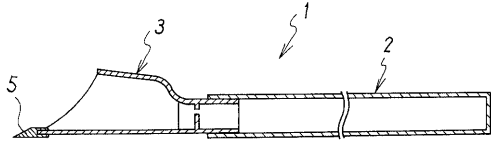
【符号の説明】

- 1 タンク付き水滴ワイパー
- 2 貯水タンク兼用の握柄
- 2 a 把持部
- 2 b 膨大部
- 3 ワイパー本体
- 5 ゴムヘラ

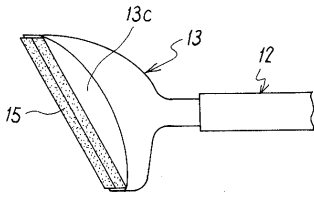
【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)

A47L 1/00-1/16